外国出張報告書 542

平成 26 年 4 月 9 日

1. 出張国名　　マダガスカル

2. 出 張 月　　平成 26 年 2 月～3 月

3. 出張目的　　一橋大：マダガスカル稲作農家調査　　:C
東京農大：マダガスカル稲作技術普及制度の調査　:C

4. 成果の概要

科研費（一橋大）：マダガスカル中央高地北部アロチャ湖の周辺には 10 万 ha におよぶ湿地帯が広がり、1950 年代から灌漑開発が進められている。現在は、5 地区に分かれた約 3 万 ha の灌漑整備地域で家族経営が定着し、マダガスカルで最大のコメ産地となっている。本科研費プロジェクトは、その灌漑地区の 1 つである PC15 において、農家のコメ販売･購買行動に関する詳細調査を予定している。今回の出張では、調査対象村を絞り込み調査デザインを策定した。

科研費（東京農大）：本プロジェクトは、人・地域作りに貢献する農業･農村支援モデルの構築を目的としている。マダガスカルでは、農協組織が国際NGOの協力を得て有機米の生産と輸出を手がけている。今回の調査では、アロチャ湖の灌漑地区の1つであるIvakaka地区にあるKoloharena農協を訪問した。この農協は4つのコミューンをカバーし、25の下部組織から構成され、組合員数は約200名である。主な活動は、農業生産資材販売、ジャトロファを原料とする蝋燭の製造、精米事業、有機SRI米の技術指導と販売、である。